

# 完全寺裏遺跡発掘調査報告書



平成 3 年 9 月

西茨城郡友部町教育委員会  
完全寺裏遺跡発掘調査会

## 序

友部町は、古来、豊かな自然に恵まれ、それぞれの時代に、人々の様々な生活があり、その足跡を数多く残しています。

町内に広く分布する遺跡や古墳、城館跡、そして、神社や寺院、天然記念物など、人々の生活に関わり、その中で育まれた様々な文化財があります。

これまで私たちは、この貴重な文化遺産を本来の姿のまま保存し、後世に伝えるためいろいろと努力してまいりました。

しかし、今日の社会情勢の変化は、誠に急激なものがあります。貴重な遺跡地にも、さまざまな開発行為が及ぶこととなりました。

このような中で、どうしても現状保存ができない遺跡については、発掘調査をしてその調査記録によって保存することとなります。

今回の発掘調査は、宗教法人完全寺の墓地造成工事にとまなうもので、この地を南端として、完全寺裏遺跡が確認されています。

この調査によって、古墳時代を中心とする遺物が数多く検出され、友部町の古代史を解明する上で、貴重な手がかりを得ることができました。

発掘調査にあたり、さまざまな形でご指導ご協力いただきました皆様、厚くお礼申し上げます。

友部町教育委員会  
教育長 富山茂夫

## 例 言

1. 本報告書は、西茨城郡友部町大字大田町字完全寺後 657 -12に所在する「完全寺裏遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗教法人完全寺による、墓地造成工事に伴うものである。
3. 調査は、完全寺裏遺跡発掘調査会が主体となり、萩原義照が担当し平成3年2月19日から2月28日まで実施したものである。
4. 調査に当たっては、宗教法人完全寺のご理解ご協力に対して御礼を申し上げ、また教育委員会事務局のご配慮についても感謝したい。
5. 出土資料は友部町教育委員会で保管している。

### 完全寺裏遺跡発掘調査組織

#### <調査会>

会 長	宮山 茂夫 (教育長)
副会長	大槻 寿雄 (文審会長)
理 事	飯島 富重 (教委事務局長)
	小谷 清治 (文審委員)
	白田 清郎 (文審委員)
	井東 温 (文審委員)
	飯田 龍 (文審委員)
	飯島 武 (文審委員)
	足立 耕作 (文審委員)
幹 事	石井 和次 (教委社教係長)
	枝川 良雄 (教委社教主事)

#### <調査員>

萩原 義照 (主任調査員)
須田 進 (調査員)

#### <事務局>

友部町教育委員会事務局

#### <作業協力員>

桑島 四郎	高輪 隆夫	富田 満	横井 義夫
須藤 皓	渡辺 幸友	白井 裕子	中崎 里美
菅野ミチ子	原田 敏子		
横倉 辰男	三村 亮	秋山 清	近藤 明德
稲田農夫男	斎藤卯三郎	仁平 達雄	勝山 義雄
丸山 勝朗	小沢 兼松		
笹島 敬義	杉森 いち	杉山 くに	五味田 弘

## 目 次

序

例言

1. 調査の経緯	1
2. 調査の方法	1
3. 遺跡の位置と環境	3
4. 遺構と遺物	
1. 遺跡の概要	4
2. 竪穴住居跡	6
3. 溝	20
4. 土坑	23
5. 屋外炉	24
5. まとめ	25

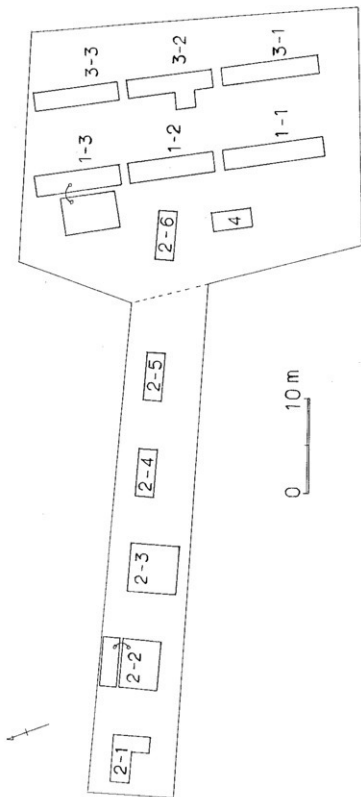
## 挿図目次

第1図 調査区設定図	1前
第2図 完全寺裏遺跡周辺遺跡位置図	2
第3図 遺跡と周辺地形図	3
第4図 遺構外採集土師器実測図(友部町史)	5
第5図 第1号住居跡実測図	7
第6図 第1号住居跡出土土器 1～4	8
第7図 第2号住居跡実測図	13
第8図 第2号住居跡出土土器 1～6	14
第9図 第1号溝出土土器	20
第10図 第1号溝実測図	21
第11図 第2号溝位置図	22
第12図 土坑実測図	23
第13図 屋外炉実測図	24
第14～19図 各トレンチセクション図	26

## 写真図版目次

PL 1	調査前の遺跡の状況	33
PL 2	第1号住居跡・遺物出土状況	34
PL 3	第2号住居跡・遺物出土状況 1	35
PL 4	第2号住居跡・遺物出土状況 2	36
PL 5	第1号溝・遺物出土状況	37
PL 6	第2号溝・各トレンチ交差部周辺状況	38
PL 7	屋外炉・遺物出土状況	39
PL 8	第1号トレンチ遺構確認状況	40
PL 9	第2号トレンチ調査区設定・遺構確認状況	41
PL 10	第3・4号トレンチ遺構確認状況	42
PL 11	第1号住居跡遺構調査・実測状況	43
PL 12	第2号住居跡遺構調査・屋外炉周辺状況	44
PL 13	出土土器	45

第1図 調査区設定図



## 1 調査の経緯

宗教法人「完全寺」は、平成2年、寺の境内地・既存墓地の北側の畑地に墓地の拡張を計画した。

この造成工事に先だって、平成2年11月、「完全寺」は友部町教育委員会に、造成用地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会を行った。これに対し、町教育委員会は、造成用地内は縄文から弥生、古墳時代に至る周知の遺跡であり、町史編纂事業における分布調査でもその所在が明らかであるため、工事の実施にあたってはその取扱いについて協議が必要であることを回答した。

「完全寺」と町教育委員会が、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った結果、現状保存が困難であると判断し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。

町教育委員会は、完全寺裏遺跡発掘調査会を組織し、宗教法人「完全寺」と埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、平成3年2月19日から28日までの期間に発掘調査を実施することとなった。

## 2 調査の方法

本調査は、調査期間が短いため、トレンチ内の遺構確認により遺跡の性格把握を目的としたため、重機利用はさけて、専ら手作業によって遺構確認につとめた。まづ1号トレンチは、緩斜面の地形にそって、南北方向に幅2m×長20mを設定し、2号トレンチは、1号トレンチにはほぼ直交して東西方向に約30m設定した。

また、1号トレンチの東側に1号と同様に3号トレンチを、西側に4mの4号トレンチを設定した。

調査対象区は、栗畑のため栗の古木が残存している。また以前は、桑畑であったため表土は深いが、土質が軽いためトレンチ内の除土作業は容易であった。

各トレンチの層序は、第15～20図のセクション図のとおりである。



第2図 完全寺裏遺跡周辺遺跡位置図 (1:25000)



### 3 遺跡の位置と環境

友部町は、県のはぼ中央に位置し、北西面は笠間市に、南は澗沼川をもって岩間町に東は内原町に境して、その面積は58.73㎡である。またJR常磐線・水戸線が町を横断する交通至便の地である。そのため開発事業も急増し、振興都市として、今後ますます発展が期待される地理的条件に恵まれている。

遺跡の分布を概観してみると、澗沼川前川や澗沼川の兩岸及び、枝折川の沿岸の洪積台地には、縄文遺跡や古墳時代の遺跡に複合して、弥生遺跡も点在している。こうした自然環境を背景として、多くの遺跡が町内に存在している。

完全寺裏遺跡は、JR水戸線穴戸駅の北約500 m、澗沼川の左岸、田町川と裏川にはさまれた、標高約50mの完全寺裏の台地に立地する。



第3図 遺跡と周辺地形図 (1:1000)

## 4 遺構と遺物

### 1 遺跡の概要

完全寺裏遺跡は、友部町史編さん事業の一つとして、町内遺跡の分布調査を実施したその報告書によって、みてみると次の通りである。

#### ○ 縄文遺跡

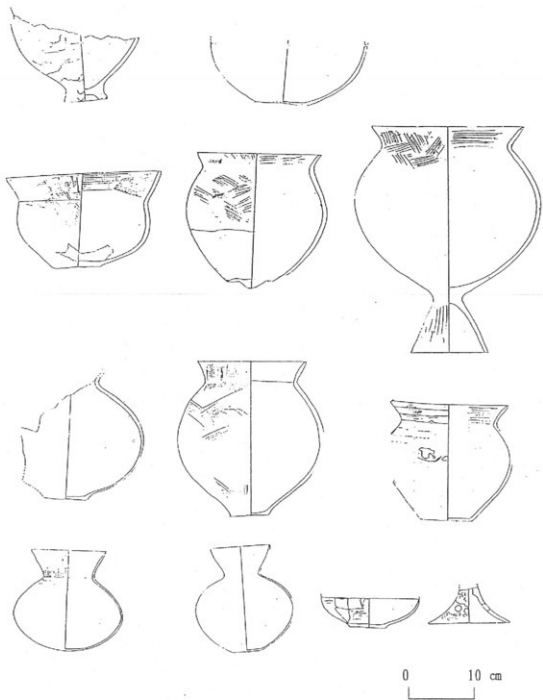
地区	番号	遺跡名	地形・立地	時期
大田町	30	完全寺裏遺跡	完全寺の裏山、北側、畑地・桑畑・栗畑である。標高38mから50mの緩斜面であり、台地の先端部にあたる。本遺跡の東側、西側には、瀬沼川からの谷津田が入り込んでいる。縄文・弥生・古墳時代の複合遺跡。	中期後期

弥生遺跡については、完全寺裏山にあたる栗畑から、弥生土器が散布していることは、以前から古式土師器が出土した地点で知られている。

完全寺裏遺跡は、多時代にわたっている複合遺跡であることは了解されるが、遺跡の範囲は明瞭でなく、縄文時代の遺物と弥生時代の遺構についても未確認であり、詳細な状況等は不明であった。今回の調査においては、期間や範囲に制約があったため、トレンチ内の遺構確認を進めた。その結果古墳時代の住居跡2軒と土坑及び溝状遺構の一部が確認された。遺物は主として土師式土器で、縄文土器片や弥生土器片は表採されたのみである。

本跡調査区内からの出土遺物は、甕形土器・壺形土器・坏形土器等の土師器の破片である。

友部町史編さん室の実施した、遺跡分布調査（前出2遺跡の性格参照）の集録によってみると、完全寺裏及びその周辺台地から採集された遺物に、土師器片271片・須恵器片3片・弥生片70片・中世陶器3片が記録されている。しかしこれらの詳細な位置は確定できないが、完全寺裏の遺跡の性格を知る資料でもある。

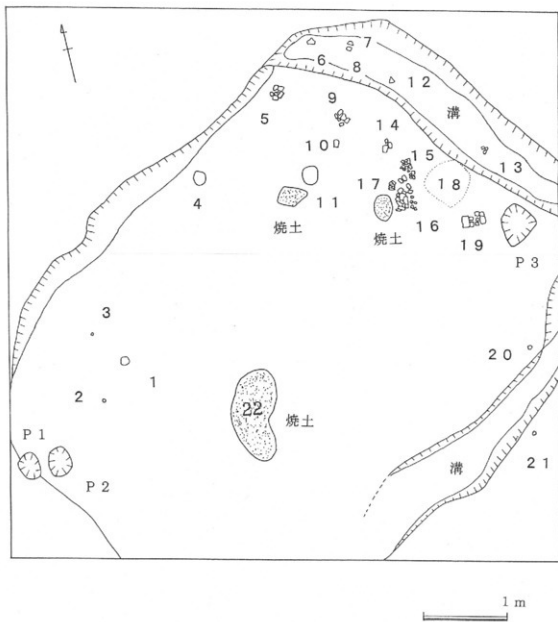


第4図 遺構外採集土師器実測図(友部町史)

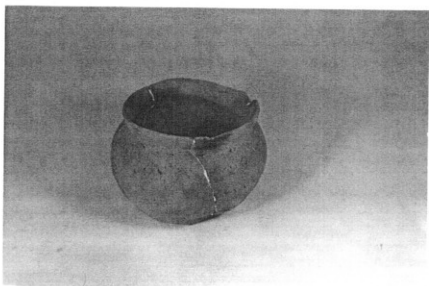
## 2 竪穴住居跡

### 第1号住居跡

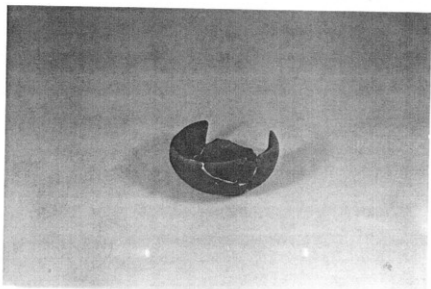
- 位 置 1号トレンチの北端(1-3)に位置している。
- 長 軸 方 向 N-60°-E
- 規模・平面形 6.00m×4.80mの不整長方形で、北東と南東に溝を有する。
- 壁 5~15cmで、外傾して立ち上がっている。
- 床 ロームでほぼ平坦。南西から北東にかけて、緩く傾斜している。
- ピ ッ ト 西端に2か所、東端に1か所検出された。径20~40cmで、深さ17~28cmである。
- 炉 中央部に長径96cm×短径43cmの楕円形のもの1か所、北東に径25cmものが2か所あり、焼土が検出された。
- 覆 土 下層は自然堆積、上層は攪乱があり、ローム粒子を含む褐色・黒褐色土である。
- 遺 物 遺物の大半は、北東端の覆土下層から集中的に出土した。
- 所 見 本跡は、遺構・遺物から判断して、古墳時代の住居跡と考えられる。



第5图 第1号住居跡实测图



口径：13 $\square$ ×13.5 $\square$  幅：15.5 $\square$  底部欠落 10

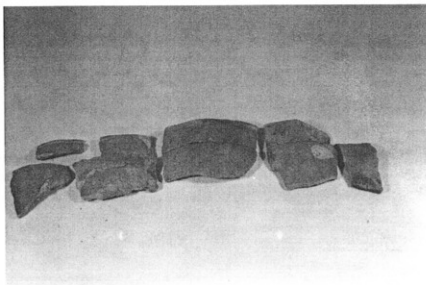


口径：9.5 $\square$  高：4.5 $\square$  幅：10.5 $\square$  1

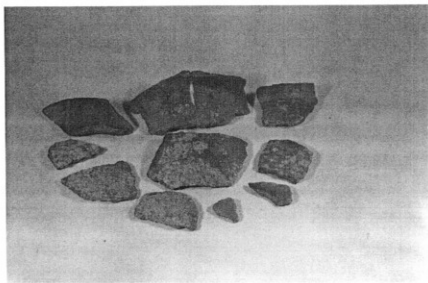
第6图 第1号住居跡出土遺物



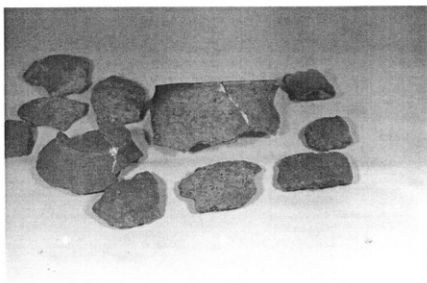
B



19

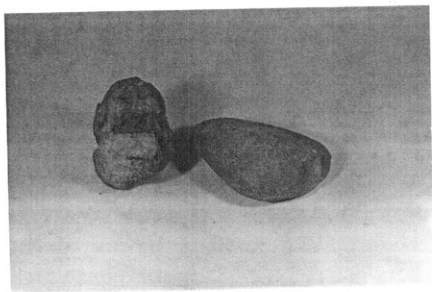


16

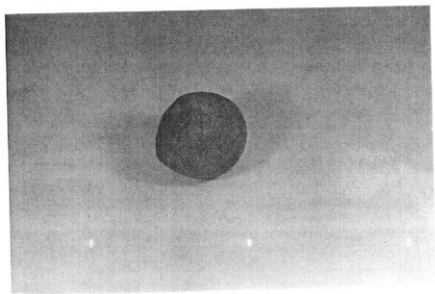


17





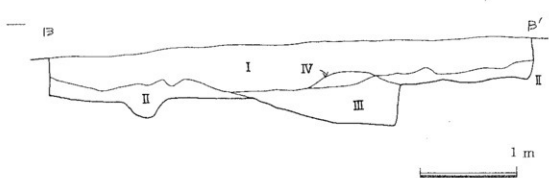
22

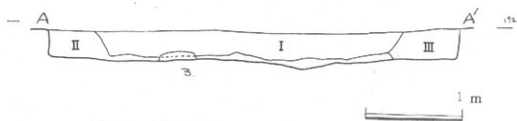
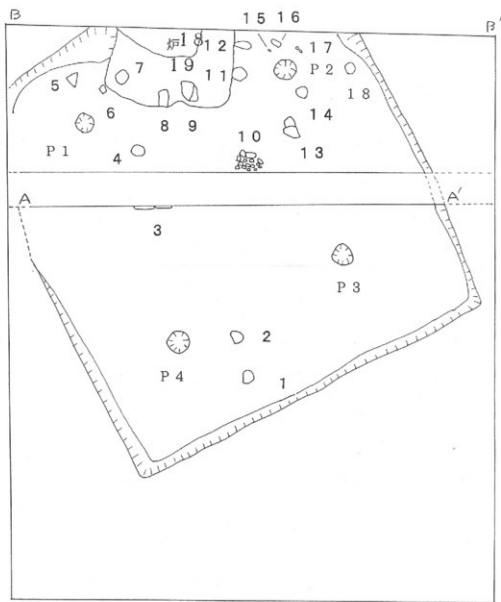


20

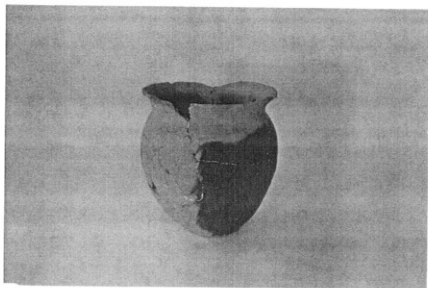
## 第2号住居跡

- 位 置 2号トレンチの西部(2-2)に位置している。
- 長 軸 方 向 N
- 規模・平面形 4.50m×4.20mの長方形で、真北中央に炉を有する。
- 壁 7~18cmで、直立に近く外傾して立ち上がっている。
- 床 ロームでほぼ平坦。南東側が、やや柔らかい。
- ピ ッ ト 4か所検出された。径22~24cmで、深さ18~25cmである。主柱穴と考えられる。
- 炉 真北中央に1か所検出され、幅136cm、高さ38cmの焼土が遺存している。
- 覆 土 下層は自然堆積、上層は攪乱があり、ローム粒子を含む黒褐色土である。
- 遺 物 遺物の大半は、北端の炉周辺の覆土下層から集中的に出土した。
- 所 見 本跡は、遺構・遺物から判断して、古墳時代の住居跡と考えられる。

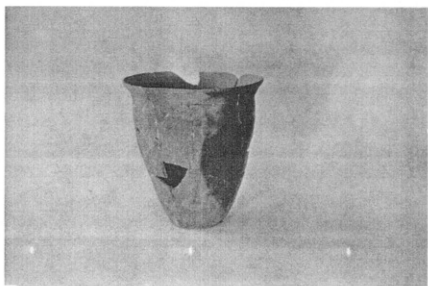




第7图 第2号住居跡实测图

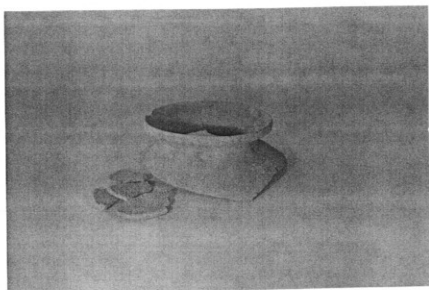


口径：23 $\square$ (17.5 $\square$ ) 高：26 $\square$  幅：30 $\square$  12



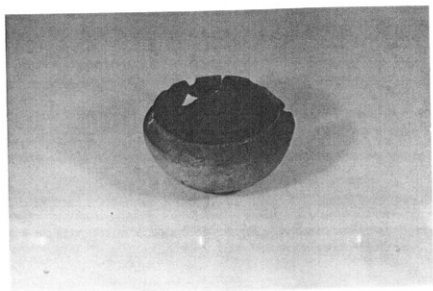
口径：26 $\square$ (20 $\square$ ) 高：27 $\square$  底部径：9.5 $\square$  3

第8图 第2号住居跡出土遺物



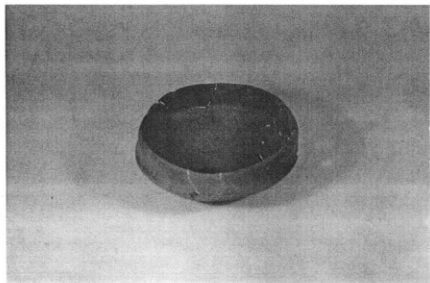
口径：19cm(12.5cm)

9

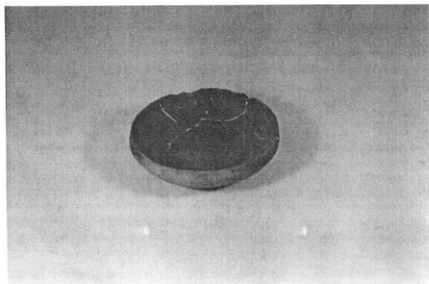


口径：12.5cm(11.5cm) 高：7cm 幅：15cm

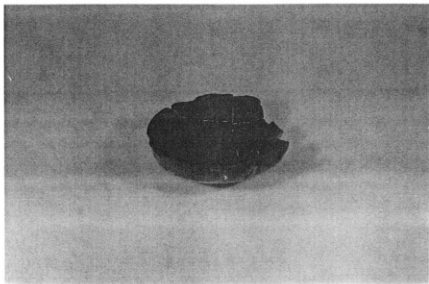
18



口径：15a×15.5a(14a) 高：6a 11

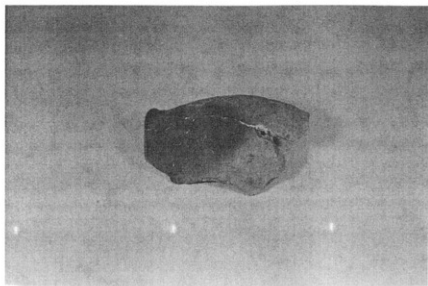


口径：14.5a 高：4a 6

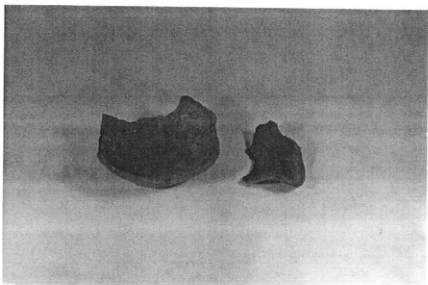


口径：14cm 高：4cm

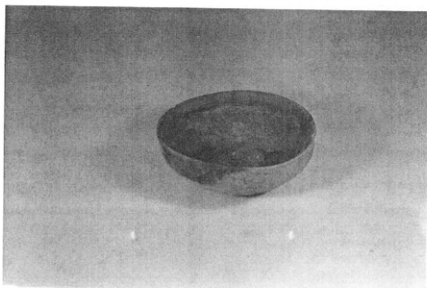
4



14



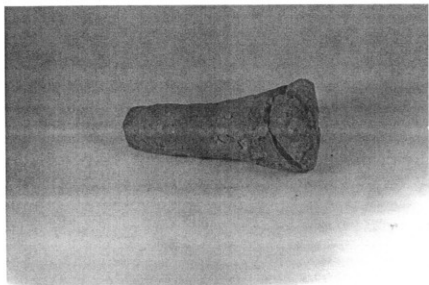
1



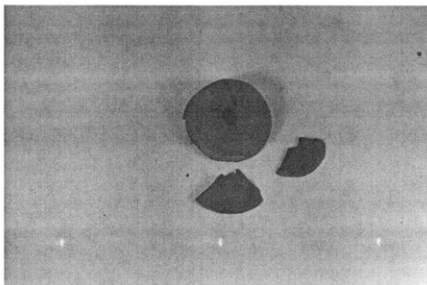
口径：14.7cm×15.6cm 高：5cm

7





径：3.8 $\square$ -8.5 $\square$  長：18.5 $\square$  かまど内 18



径：4.3 $\square$  穴径：0.7 $\square$ -0.75 $\square$  かまど内 紡垂車(部分) 19

### 3 溝

#### 第1号溝

位 置 2号トレンチの中央(2-3)に位置している。

主 軸 方 向 N-27°-E 及び N-74°-W

重 複 関 係 北北東から南南西へのものと、東から西へのものがこの地点で交差している。後者が、深くなっている。

規 模 前者は、上幅が1.0m~1.8m、下幅が0.6m~1.1m、深さが0.3m~0.4mである。

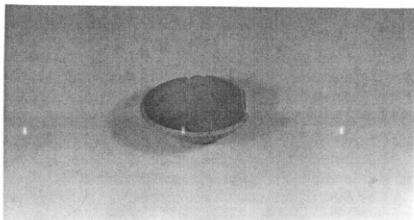
後者は、上幅が1.4m~1.6m、下幅が0.4m~0.6m、深さが0.4m~0.6mである。

断 面 形 皿状及び椀状を呈している。

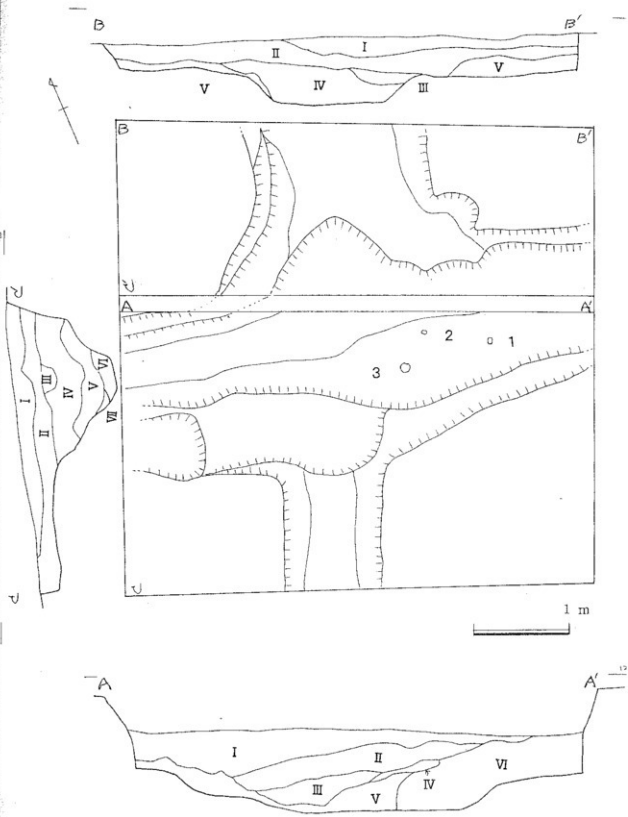
覆 土 自然堆積。ロームブロックを含む褐色土で、柔らかい。

遺 物 土師器杯1点と、土師器片が出土した。

所 見 時期は不明であるが、この地を畑としたときの根切り溝と思われる。



第9図 第1号溝出土遺物 3 口径:10.8cm 高:3cm



第10图 第1号沟突测图

第2号溝

位 置 3号トレンチの南(3-1から3-2西)に位置している。

主 軸 方 向 N

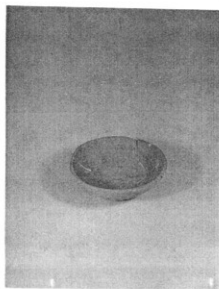
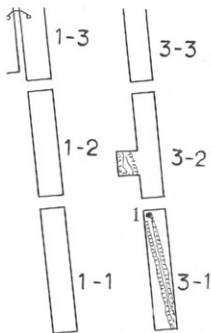
規 模 上幅が0.4m~0.6m、下幅が0.3m~0.5m、深さが0.1m~0.3mである。

断 面 形 皿状を呈している。

覆 土 自然堆積。ロームブロックを含む褐色土で、柔らかい。

遺 物 土師器杯1点

所 見 1号同様、時期は不明であるが、この地を畑としたときの根切り溝と思われる。



1 口径：9.5m 高：3x

第11図 第2号溝位置図

#### 4 土坑

土坑

位 置 1号トレンチの中央(1-2)に位置している。

規模・平面形 径120cmの円形を呈し、深さは40cmである。

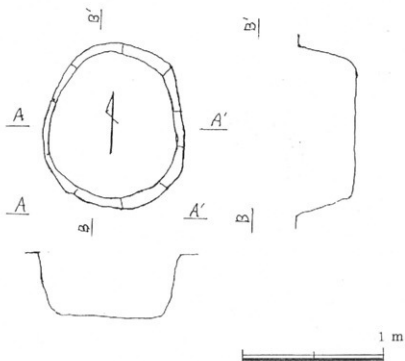
壁面 垂直に立て上がっている。

底面 ロームで、締まっている。

覆 土 自然堆積。ロームブロックを含む暗褐色土で、柔らかい。

遺 物 なし

所 見 用途は定かではないが、近年の芋等の貯蔵穴と思われる。



第12図 土坑実測図

## 5 屋外炉

屋外炉

位 置 2号トレンチの西端(2-1)に位置している。

長 径 方 向 N-75°-E

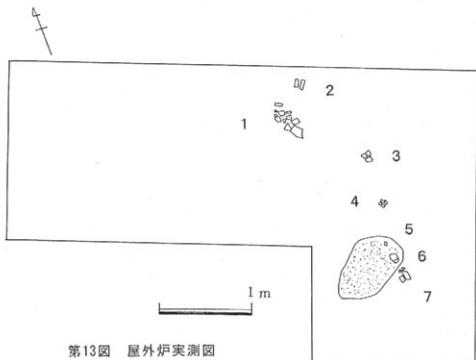
規模・平面形 80cm×50cmの楕円形を呈している。

炉 の 状 況 炉床は、地面を15cmほど椀状に掘り下げて構築している。

覆 土 炉床のロームが赤変し、焼土が20cmほど遺存している。

遺 物 炉から南北に、土師器破片が散在している。

所 見 2号住居跡の西7mほどのところにあり、同時期に使われたものと思われる。



第13図 屋外炉実測図

## 5 まとめ

宗教法人「完全寺」の墓地拡張造成工事に伴う、完全寺裏遺跡の発掘調査は、平成3年2月19日～26日の7日間で行われた。調査の結果、古墳時代の遺構・遺物を検出し、多くの貴重な資料を得ることができた。

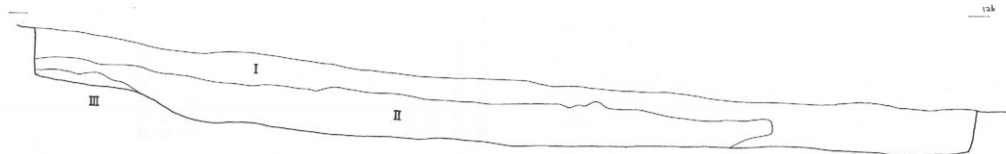
本遺跡及び周辺台地は、早くから、弥生式土器片や古式土師器等が出土・採集され、町内で最も多く分布するところとして知られていた。（『友部町史』）

本遺跡において確認したものは、遺構として堅穴住居跡2軒などである。住居跡に伴う遺物は、壺・甕・坏などの土師器破片が主なもので、相当数の出土があった。古墳時代に比定されるものと考えられる。

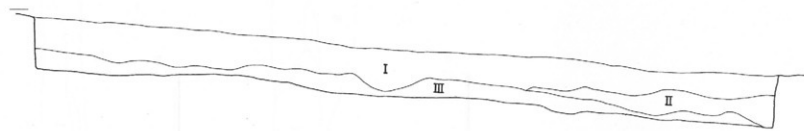
遺構の主体となるものは、古墳時代の住居跡であるが、完全寺裏台地一帯には、弥生時代の遺構も存在するものと想定されている。

今回の調査では、限られた範囲の限られた期間での調査であったため、それらを含めた遺跡の全容をとらえるまでには至らなかった。しかし、この台地での調査は初めてのことであり、町内でのこの時代の遺跡の調査例がないこともあって、今回の調査で得られた成果・遺物は、町のこの時代の生活を知る上で貴重な手がかりとなると思われる。

今後、さらに各地の調査が行われ、他の地域の調査との比較検討がなされ、友部町の歴史が詳細に解明されることを期待し、この調査の成果が活かされれば幸いである。



- 1-1 土層解説 I 表土(耕作土)  
II 黒褐色(ローム少量混入)  
III 褐色



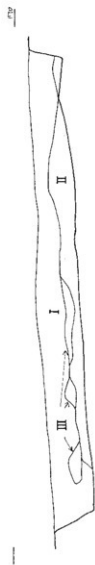
- 1-2 土層解説 I 表土(耕作土)  
II 褐色(縮まり無し)  
III 明褐色(ロームブロック混入)



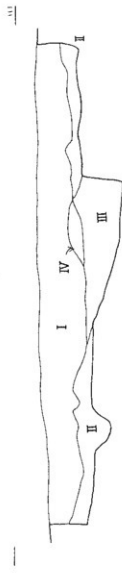
- 1-3西 土層解説 I 表土(耕作土)  
II 褐色  
III 黒褐色  
IV 褐色(粘土混入、攪乱)



第15図 第2トレンチセクション図 1



2-1 土層解説 I 表土(耕作土)  
II 褐色  
III 黒褐色



2-2 北 土層解説 I 表土(耕作土)  
II 明褐色  
III 褐色(鹿沼土混入)  
IV 鹿沼土ブロック



第16図 第2トレンチセクション図 2



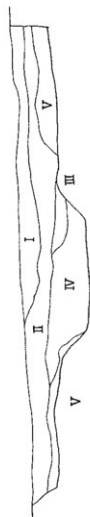
2-2 土層解説 I 表土(耕作土)  
 II 黒褐色(粘土少量混入)  
 III 明褐色



2-2 B 土層解説 I 黒褐色  
 II 明褐色  
 III 褐色

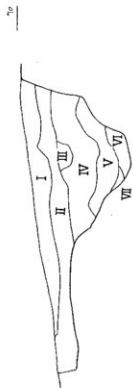


—<sup>107</sup> 2-3北



- 土層解説
- I 表土(耕作土)
  - II 褐色
  - III 褐色(ロームブロック混入)
  - IV 褐色(ロームブロック少量混入)
  - V 明褐色

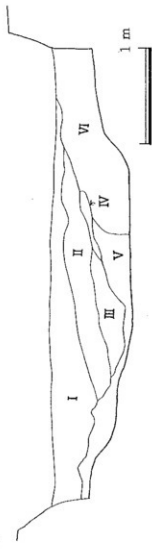
2-3



- 土層解説
- I 表土(耕作土)
  - II 褐色
  - III 褐色(粘土ブロック混入)
  - IV 褐色
  - V 褐色(粘度あり)
  - VI 明褐色
  - VII 明褐色(白色を帯びる)

2-3 B

—<sup>121</sup> 土層解説



- 土層解説
- I 褐色(ロームブロック少量混入)
  - II 褐色(ロームブロック少量混入、やや明るい)
  - III 明褐色
  - IV 褐色(粘土、鹿沼土混入)
  - V 褐色(粘土少量混入)
  - VI 褐色

第18図 第2トレンチセクション図 4

7p



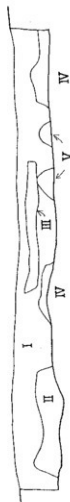
土層解説 I 表土(耕作土)

II 黒褐色(粘土少量混入、焼土含む)

1 m



2p



土層解説 I 表土(耕作土)

II 褐色(炭混入)

III 褐色

IV 明褐色(締まり有り)

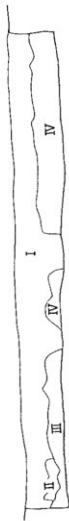
V 明褐色

2-5

1 m



70



2-6 土層解説 I 表土(耕作土)

II 褐色(炭混入)

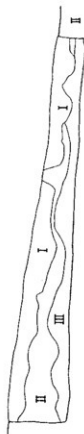
III 明褐色(ロームブロック混入)

IV 黒褐色(粘土ブロック混入)

1 m



115



4 土層解説 I 表土(耕作土)

II 黒褐色

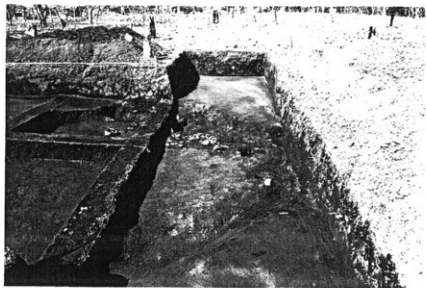
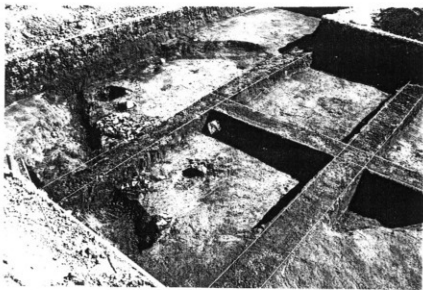
III 明褐色

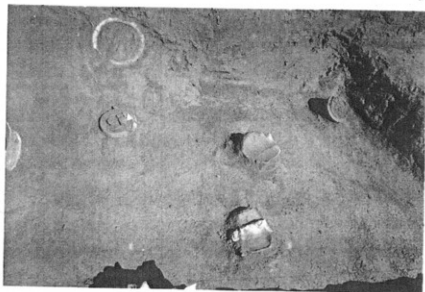
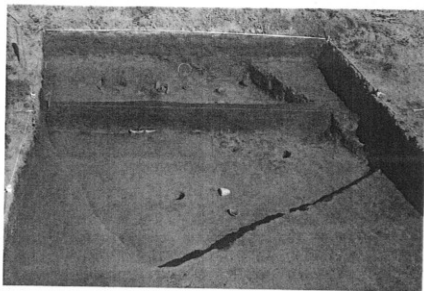
1 m



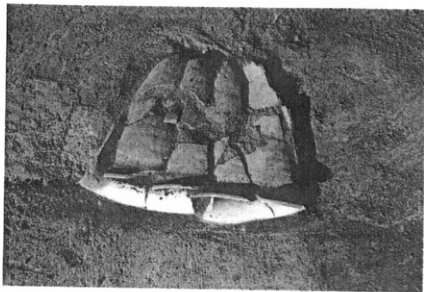
PL 1 調査前の遺跡の状況

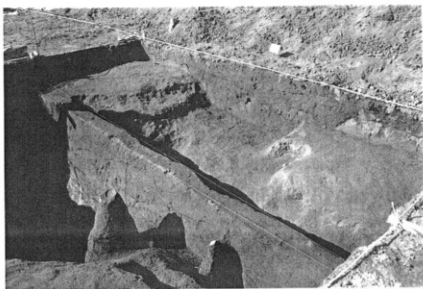
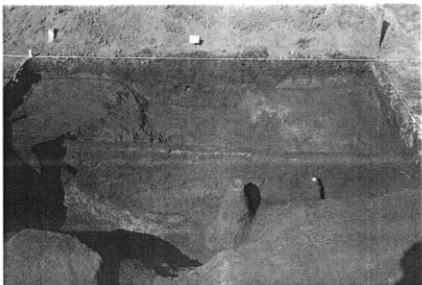


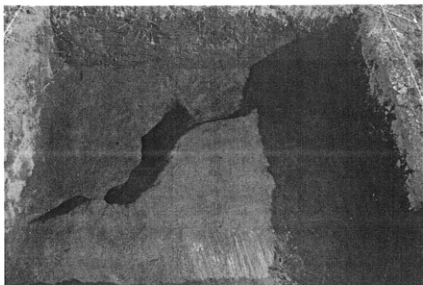


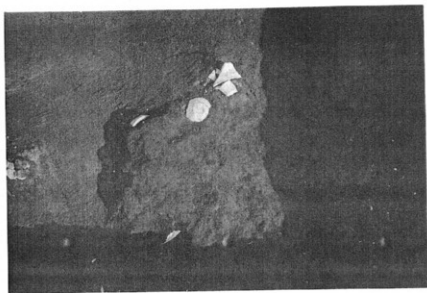
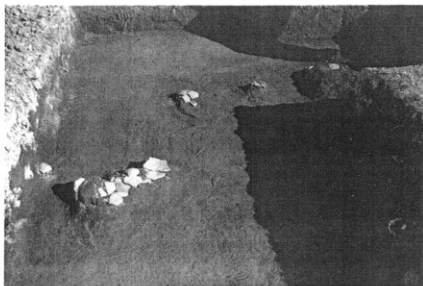




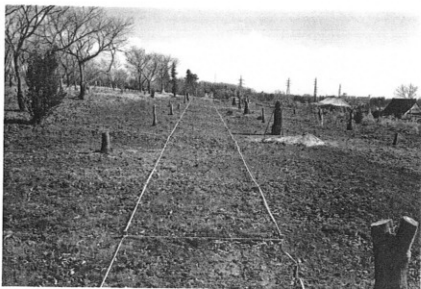


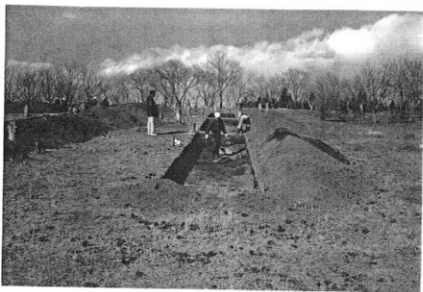


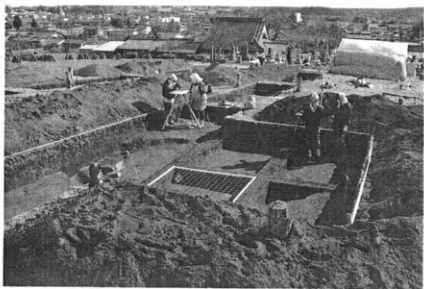




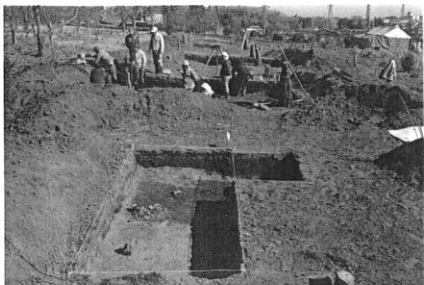




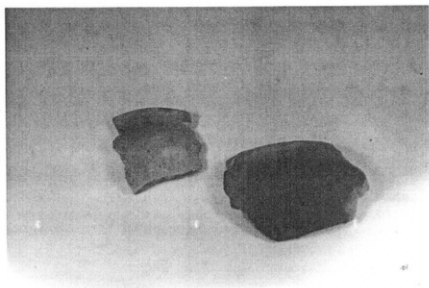


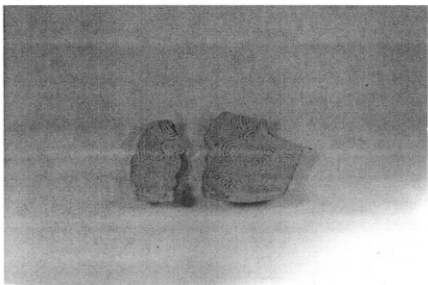






屋外炉出土土器





## 完全寺裏遺跡発掘調査報告書

編集 完全寺裏遺跡発掘調査会  
発行 友部町教育委員会

〒309-17 西茨城郡友部町中央 3-2-1

☎0296-77-1101

平成6年3月31日

---

